

自 2021年4月 1日
至 2022年3月31日

2021年度 事業報告書



公益財団法人ハーモニセンター

目次

| | |
|--|----|
| 2021年度の概況..... | 1 |
| 1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営..... | 2 |
| 1.1. キャンプ | |
| 1.2. 日帰り企画 | |
| 1.3. 蓼科ポニー牧場 | |
| 1.4. 相馬ポニー牧場 | |
| 1.5. 小貝川ポニー牧場 | |
| 2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理..... | 6 |
| 2.1. 碑文谷公園こども動物広場 | |
| 2.2. 水元スポーツセンター公園子ども動物広場 | |
| 2.3. 相模原麻溝公園ふれあい動物広場 | |
| 2.4. 板橋区こども動物園 | |
| 2.5. 上千葉砂原公園ふれあい動物広場 | |
| 3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及..... | 9 |
| 3.1. 「馬のいる領域」研究集会 | |
| 3.2. 馬の利活用を通じた青少年の健全育成、地域交流等を推進する事業 | |
| 3.3. クラウドファンディングによる障害者施設への移動動物教室の提供 | |
| 4. 川べり環境の整備及び活用の推進..... | 10 |
| 4.1. カヤック教室・水辺でのプログラム | |
| 4.2. 河川騎馬パトロール | |
| 5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進..... | 11 |
| 5.1. モンゴル大草原交流 | |
| 5.2. 日独青少年相互交流計画 | |
| 6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信..... | 12 |
| 6.1. 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行 | |
| 6.2. WEB広報 | |
| 7. その他..... | 13 |
| 7.1. 規程変更 | |
| 7.2. 馬の管理 | |
| 7.3. カウンセラー・職員等の研修 | |
| 7.4. 会議等 | |
| 7.5. 法人事務 | |
| 7.6. 賛助会員 | |

2021年度の概況

この年度も、新型コロナウイルス感染症の影響は続き、法人運営にも多くの制限を受けることとなりました。

特に夏のキャンプで陽性者が生じたことでは、多くの方が不安を感じられたことでしょう。そして、それにとまなう夏休み期間のキャンプ中止は、子供達の活動の機会を奪うことになるものであり、大変つらい判断でした。年間を通じて見ると前年度を上回る方々にキャンプに参加していただくことができましたが、感染予防の観点から各キャンプの定員を大きく絞っているために、「ハーモニセンターのキャンプに参加したい」という需要に十分に応えきれていない状況は続いています。

ふれあい動物広場等の受託施設でも、緊急事態宣言発令中、まん延防止等重点措置の期間を中心に、さまざまな制限がありました。イベントの中止や一部プログラムの停止、利用人数の制限などが続きましたが、その状況下でも各事業所で工夫を重ね、地域や関係団体等と連携した新たな取り組みも生まれました。

ハーモニセンターの大きな柱のひとつである国際交流事業も、訪問を伴う直接交流はできない状況が続きます。しかし、この年度は日独青少年相互交流計画30周年の記念の年であり、複数のオンライン交流事業を行いました。11月には、ドイツと東京、鳴子を結んで記念式典を行い、直接交流の再開を誓い合いました。

そんな中ですが、これまでにない取り組みも始まっています。前年度にクラウドファンディングで集めた資金を用いて、18か所の障害児者施設に移動動物教室を提供することができました。また、蓼科ポニー牧場では、不登校児等の居場所事業「ひだまりファーム」を年間を通じて実施しました。これらの取り組みは、ハーモニセンターの持つスキル、ノウハウを生かして社会課題に対応するよい事例となります。特に、不登校児等の居場所づくりは、今、大きな社会的トピックとなっており、ハーモニセンターにとっても向き合えぬわけにはいかないテーマです。

いわゆる“コロナ禍”が始まって丸2年が過ぎました。まだまだ確実な見通しを持つことは難しい状況ですが、これまでの経験を生かし、改めて「体験を止めない」という強い思いを持って、活動を少し^{はやあし}速歩に切り替えていかなければなりません。

この年度には運営体制にも変化がありました。長年にわたってハーモニセンターの活動を主導してきた大野重男氏が代表理事を退任し、村松真哉新代表理事が就任しました。また、新たに外部の有識者を含む評議員名簿作委員会を組織し、透明性を確保した手順を経て評議員の選任を行いました。この新しい体制の下、これまでに蓄積されたレガシーを大切に生かしつつ、“今”の社会課題に対応する取り組みが始まります。

ハーモニセンターの前身となるハーモニサークルが1961年に活動を始めてから、60年の年月が過ぎました。

2月6日にはオンラインで記念式典を行い、ゆかりある多くの方々からメッセージが寄せられました。そこから感じ取ったのは、それぞれに活動を通じて「思い出すだけで胸が熱くなる体験」を得ておられること、そして、そのような体験を多くの子供達に届けてほしいという、ハーモニセンターに対する熱い期待でした。

60年をかけて積み重ねてきた有形・無形の資産を生かし、かかわりのあるすべての方々を結集し、一人でも多くの子供達に「思い出すだけで胸が熱くなる体験」を提供していく。その思いを新たにしています。

1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営

1.1. キャンプ

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス対策をしながらキャンプを行う1年となった。夏休み期間はキャンプで陽性者が出たため2コースのみを実施し、それ以降の9コースが中止となった。また、昨年度までは小貝川ポニー牧場でもキャンプを実施していたが、宿泊施設確保や気候の課題があり、実施を見送った。それでも、子供キャンプはポニー11コース、スキー3コース、スケート2コースの計16コースを実施し、参加者は昨年とほぼ同数となった。また、ファミリーキャンプは、昨年比6コース増の8コースを実施し、約100名の参加者増となった。ファミリーキャンプの人気は高く、コロナ禍における家族での余暇活動需要の高まりが感じられた。

夏冬春の長期キャンプやファミリーキャンプに関しては、申込受付開始後すぐに定員となり、多数のキャンセル待ちが生じる状況が続いた。参加者はリピーターだけでなく、一定数の初参加の子供達もあり、キャンプが広く求められていることを強く感じる。

受託キャンプについては、昨年に引き続いて新潟県六日町の子供達を対象とした蓼科ポニー牧場でのキャンプを実施した。

今年度は全体として前年度を上回る参加者を得たが、コロナ禍以前と比較すると大幅に少ない状況は続いている。多くの子供達に体験を届け続けるため、定員数を含めた新型コロナウイルス感染対策のあり方を見直すとともに、新規キャンプの実施も検討したい。



1.2. 日帰り企画

夏休みキャンプの中止を受け、9月と10月に5回の日帰りイベントを実施した。小貝川ポニー牧場で実施した1Dayキャンプの他に、火おこしと飯盒炊爨、クラフト、サイクリングのプログラムを行った。急遽企画し、申込期間が短かったこともあり参加者は合計31名に留まった。しかし、夏休みキャンプの参加予定者だけでなく、最近キャンプに来ることができていなかった子供達も参加してくれ、気軽に参加できる日帰りイベントの意義を感じることができた。

来年度は、HAC(ハーモニアクティブチャレンジ)の「誰でも気軽に参加できるハーモニー」というコンセプトに立ち返り、子供・親子はもちろん、多様なハーモニファンの方が参加できる企画を実施していきたい。



1.3. 蓼科ポニー牧場

6月に念願であった新厩舎が完成した。33馬房、間口6m、通路4mのゆとりある厩舎は、子供達が安全に活動できる環境を提供するとともに、馬達にとっても快適な空間となっている。

活動については、昨年度に引き続きコロナ禍の影響で思うように宿泊事業が行えず、厳しい状況が続いた。しかし、不登校児受け入れ事業「ひだまりファーム」を行ったほか、牧場を拠点とした「牧場ようちえん ぽっこ」も行われ、新たな牧場活用の可能性を見いだすことができた。

A. 宿泊の牧場利用

昨年度同様にコロナ禍の影響を受け、宿泊利用には多くの制限が生じた。自主事業キャンプだけでなく、OB会等の利用も人数制限をし、感染対策を取りながらの実施となった。

自主事業キャンプ:13回(30泊) ファミリーキャンプ:6回(6泊)

広場キャンプ:4回(8泊) OB会:1回(1泊) ライダースカップ合宿:3回(3泊)

他団体利用:1回(1泊)

B. 日帰り団体の牧場利用

白樺ユースホステルより「馬の学校」(障害児ファミリー)4名、名古屋市立猪高中学校16名、ポピンズ(保育園)20名を受け入れた。

C. 蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC)

小1～中3を対象に月2回実施した。高校生OBがボランティアとして参加するほか、年間を通じた多くの活動に父兄が関わっている。参加者は地元中心であるが、東京からの参加者もいる。

実施回数:22回 のべ参加者:388名 月謝制¥5,500

行事:前後期保護者会(年間)・ライダースカップ・クリスマス会、成果発表会など

D. 移動乗馬教室

JRAの助成を受け2期にわたり、茅野市内の保育園、小学校を訪問した。

7月6日～10日 全8か所 のべ48頭

11月1日～5日 全7か所 のべ42頭

E. 牧場レッスン・引き馬

コロナ禍による休業期間があったが、前年比プラス12%であった。

F. その他

- ・ ひだまりファーム

日本財団の助成を受け、不登校児の居場所事業「ひだまりファーム」を33回実施、のべ285名が参加した。

- ・ 牧場ようちえん ぽっこ

牧場施設を利用した「牧場ようちえん ぽっこ」の活動が年間を通じて行われた。

- ・ ポニーステイ

昨年度に引き続き、長野県伊那市立伊奈小学校にガリバーを無償貸与した。

- ・ スタッフ乗馬研修

2月27日～3月4日にスタッフ6名を対象に実施。外部講師として特定非営利活動法人ハーモニカレッジ・中野事務局長を招聘した。

- ・ カウンセラー研修

11月26日～28日に宿泊研修を実施した。

- ・ 牧場フェスティバル

7月10日に牧場開放事業「牧場フェスティバル」を開催し、のべ360名が来場した。

1.4. 相馬ポニー牧場

昨年度に引き続き、南相馬市地域復興プログラムにおける除染物質の仮置き場として放牧場を貸与していたが、3月末に契約期間が終了し、原状復帰している。

東日本大震災後の事業停止にともなう営業損害(逸失利益)の東京電力ホールディングス株式会社に対する賠償請求については、原子力損害賠償紛争解決センターより和解案が示され、種々検討の上、それを受諾した。

1.5. 小貝川ポニー牧場

A. 日帰り団体の牧場利用

昨年度に引き続き、コロナ禍の影響で障害者団体、特別養護老人ホーム等の利用控えが目立った。また、夏の1Dayキャンプも中止となった。しかし、その結果、個人利用が可能な時間帯が増加したため、引馬とレッスンは増加した。

B. ポニー教室

小1～中3を対象に日曜日と祝日に実施してきたが、参加希望者が増加したため、土曜日クラスを新設した(各30名)。

ポニー教室は子供達の居場所のひとつとなっており、コロナ禍の影響で不登校になった子供の受け皿として、平日の牧場作業の手伝いをしたいという希望もあった。このことから、保護者会を実施し、保護者の声を取り入れる機会も積極的に持った。

C. 移動乗馬教室

移動乗馬教室の活動拠点のひとつとして、勝浦、JRA取手・JRA南魚沼・JRA東北・水の郷さわら・渋谷区・日体幼稚園などにポニーを派遣した。

D. ポニーステイ

昨年度実施した大田区の会員宅へのミニチュアホースの譲渡は、大田区に動物広場を作りたいという夢に繋がった。今年度は新たな取り組みとして、1週間のポニーステイを行い、障害児・医療的ケア児を含む多くの子供達に体験乗馬を提供した。このことは1Dayキャンプなど、新たなプログラム実施へのつながりを見せている。



2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理

2.1. 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の3年目)

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら基本事業(小動物とのふれあいコーナー、ポニー乗馬、ポニー教室(個人・団体))を着実にを行うとともに、さらなる利便性の向上、サービスやプログラムの充実に取り組んだ。利便性向上の一例として、ポニー教室(個人)のネット予約システムの導入がある。改善の余地はあるものの、これまでの電話や郵送と比べ「便利になった」と概ね好評だった。

また、自主事業である動物クラブを再開したほか、ポニー教室(個人)卒業生の保護者向け見学会等、サービスやプログラムの充実に取り組んだ結果、事業の内容やその雰囲気、職員の対応など、参加者の約8割から「良い」とアンケートでの評価を受けた。

コロナ禍によって体験活動の場所が限られる中、各事業への申込希望や質問が多く寄せられた。ポニー教



室(団体)では、30以上の新規団体の利用があったほか、パラリンピックに卒業生が出場した影響もあってか、障害児のポニー教室(個人)参加への問い合わせが続いたことが印象的であった。馬や小動物、仲間と過ごす体験活動の場、第三の居場所としての需要を感じた一年であった。

そのほか、ボランティア研修(135名参加)、中学校などの実習受け入れ(5校10名)を行ったほか、ポニーの糞を活用した小規模堆肥づくりや地域住民・農家からの野菜活用など環境に配慮した活動を行った。

2.2. 水元スポーツセンター公園子ども動物広場(受託・1年契約)

今年度もコロナ禍の影響が続き、まん延防止等重点措置の期間は引馬を中止し、個人教室は学年で分けて実施することとなった。パートナーアニマル教室は、感染状況を見ながら1日あたり4名から6名の受け入れ体制に戻した。イベントは中止となったものもあるが、時期や内容を変更して前年度と同程度の規模で開催できた。

また、4月にテレビ東京の「出沒！アド街ック天国」に取り上げられたことも影響したのか、例年の約2倍となる134名の新規入会者があり、区外からの問い合わせも多かった。その効果もあり、利用者数は昨年度と同程度で推移した。

来年度は区からの提案もあり、団体教室での小学校の受け入れや近隣の小学校への訪問などを試験的に行う予定である。また、不登校児や生活困窮家庭への支援など既存の枠組みを越えた活動を行えるように区と話し合いを行い、種まきの年とした。



2.3. 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の3年目)

今年度はコロナ禍の影響を受けつつも、「今の自分達にできること」を意識して、新たな取り組みを行った。

広場では「トカラ馬」という天然記念物の在来馬を飼育しているが、ポニーボランティアの子供達対象に在来馬に関する勉強会を行った。トカラ馬を貸し出してくださっている鹿児島大学の先生や同じ在来馬である対州馬の普及活動を行っている元カウンセラーとオンラインで繋いで学んだ。これにより、「好きな馬達を守るためにはどうしたらいいのか」という一歩踏み込んだ考えが生まれ、よりいっそう馬に愛情をもって接することができるようになった。

また、友好協定を結んでいる麻布大学の野鳥研究会サークルの学生を呼んで、動物クラブの子供達とともに、周辺に生息している野鳥探しを行った。鳴き声に耳を傾け、望遠鏡を覗いて鳥の姿を一生懸命探すことで、新たな刺激を与えることができた。

コロナ禍によりフェスティバルが中止になり、大人気の親子乗馬も再開できていない状況が続いているので、来年度はプログラム再開に向けて一歩を踏み出せたらと思っている。



2.4. 板橋区こども動物園(指定管理・指定期間5年の2年目)

こども動物園本園はリニューアルオープン後、初めて年間を通じてオープンした1年となった。

リニューアルオープンの際に新たに加わったにケヅメリクガメ3頭、ヤクシカ1頭やミニチュアホース、中型ポニーの馴致も順調に進み、多くの来園者を楽しませている。特にケヅメリクガメは動物の毛にアレルギーのある人でも触れられるため、イベント的にふれあい体験を行い好評を得ている。ミニチュアホースは持ち前のおとなしい性格を活かし、ふれあい体験や写真撮影なども行っている。

一方、永らく貢献してくれたヤギやひつじが寿命により死亡することが重なり、来園者や職員を悲しませた。常連の方々からは思い出を聞いたり、お悔やみの手紙を受け取ったりし、動物たちとのふれあいが生活の一部となっていたことが感じられた。

新しく仲間に加わった仔ヤギも馴致訓練を十分に行い、来園者の人気者になった。地域のインフルエンサーの方と共同で作成した、分園の仔ヤギのドキュメンタリー動画は、訓練や芸の発表の様子を半年間撮り続けたもので好評を得た。本園の目玉となっているヤギの草屋根登りは仔ヤギを中心に行っており、新しい仲間たちのお披露目の場としても活用している。

指定管理者制度の導入に伴い自主企画によるイベントを行うようになり、年間イベント数も増加した。コロナ禍の影響で親子祭やひつじの毛刈りなどの大規模イベントの開催は中止となったが、本園・分園とも代替事業として、親子での羊の毛刈り体験や防災イベントなどを実施した。



また、地域の方々により身近に感じていただくために、本園・分園ともに近隣の方々とともに花壇づくりを行ったり、フリースクールや近隣保育園、幼稚園と協力して公園清掃を行ったりしている。「ちよいボラ」を合言葉

に、常連の方々を対象に施設の改修、公園清掃、動物クイズの提供、写真クラブの作品展示などのボランティア活動も受け入れている。加えて、SDGsにつながる活動として、板橋市場から廃棄予定の野菜をいただき、食品ロス削減につなげる取り組みも継続して行っている。

次年度も新型コロナウイルス感染防止に配慮しつつ、本来の目的である地域活性と、ふれあいを通じてほっとできる場所づくりにつながる運営を行いたい。



2.5. 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)

緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用などにより、今年度も長期にわたってふれあいコーナー、引馬、動物愛護クラブ、ポニー教室の中止を余儀なくされた。しかし解除後は、ふれあいコーナー、引馬ともにコロナ禍前と同等の利用者があり、各コーナーの利用者数、入園者総数とも、昨年度比で増加した。

ふれあいコーナーでは、整理券による利用者数の制限が続いており、コロナ禍以前に比べると利用者数はかなり少なくなっているが、その分、利用者と1対1で接する場面が増え、しっかりと話をする機会が増えた。

来年度は新型コロナウイルス感染防止対策に十分配慮しながらイベント再開を目指し、さらに親しみやすい動物広場としていきたい。



3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

3.1. 「馬のいる領域」研究集会

11月27日(土)・28日(日)の2日間、初のオンライン配信により開催された。海外からの特別講演が2題あったほか、当団体も山本理事が「ハーモニセンターにおけるポニー～ホースセラピーとの関わりも含めて～」という発表を行った。一堂に会することができなかったのは残念であるが、全国各地からの発表があり、オンライン配信の利点も感じられた。



3.2. 馬の利活用を通じた青少年の健全育成、地域交流等を推進する事業

全国乗馬倶楽部振興協会より1,600万円の助成金を得て、茨城県取手市・相模原市・新潟県南魚沼市・長野県茅野市という4自治体の施設を訪問し、のべ3,000人を超える方々に乗馬体験を提供した。

また、蓼科ポニー牧場では「牧場フェスティバル」を7月11日に実施し、約280名の方々が乗馬を体験した。

取手市:6月23日～25日 保育園・幼稚園を中心に11か所を訪問

相模原市:7月5日～19日 児童養護施設や支援学校など12か所を訪問

南魚沼市:10月4日～8日 小学校を中心に8か所を訪問

茅野市:7月6日～9日・11月2日～5日 不登校児対象事業含めて15か所を訪問

3.3. クラウドファンディングによる障害者施設への移動動物教室の提供

2020年度にREADYFORで実施したクラウドファンディングでいただいた寄付金を活用し、東京都内及び神奈川県内の障害児施設18か所を訪問した。

4. 川べり環境の整備及び活用の推進

4.1. カヤック教室・水辺でのプログラム

2021年度は昨年度大変好評だったカヤック教室を4回企画した(うち1回は天候と河川状況の不良により中止)。コロナ禍による移動制限が続いたことで、近隣での野外活動への需要が高いことが感じられた。

また、活動場所の確保と河川敷整備を目的に、ゴミ拾い、草刈を実施した。合わせて、ポニー教室中にプログラムの一環として「河川とプールの違い」「堤防の重要性」などのレクチャーを行った。

4.2. 河川騎馬パトロール

茨城県河内町での河川騎馬パトロールは2回の実施を計画したが、いずれも新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止となった。



5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

5.1. モンゴル大草原交流

コロナ禍の影響で海外渡航ができず実施できなかった。

5.2. 日独青少年相互交流計画

コロナ禍の影響で海外渡航ができず、オンラインのみでの実施となった。この年は日独青年相互交流計画の30周年であったので、オンラインで、東京・宮城県大崎市鳴子・ドイツの3拠点を繋ぎ、ささやかな式典を行った。また、特別イベントとしてドイツ国際平和村についてのオンラインレクチャーを実施した。

A. 日独青少年相互交流計画30周年記念オンライン交流

・ 青少年交流・指導者交流

オンラインで日本とドイツを結び、お互いの文化・施策等について学んだり、今後の交流についてディスカッションを行うなどした。

小中学生(ポニースクールかつしか) 8月21日・8月22日・9月11日・9月12日 各回10名

高校生・大学生(カウンセラー・過去参加者) 10月21日～24日 各回8名

ハーモニセンター職員・鳴子関係者 12月5日～9日 10名

・ 30周年記念オンライン式典 11月21日

東京・鳴子・ドイツをオンラインで結び、オンラインで記念式典を行った。デュッセルドルフ総領事のあいさつがあったほか、過去参加者からたくさんのエピソードが語られ、「次は直接交流を！」と約束を交わした。

B. オンラインレクチャー「ドイツ国際平和村から～コロナ禍の世界の子供達～」 3月20日

ドイツ国際平和村(2019年に訪問)の日本人スタッフから、活動の内容、コロナ禍における状況などを教えていただく、オンラインレクチャーを行った。

参加費はすべてドイツ国際平和村に寄付した。

6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

6.1. 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行

月刊紙として各号2,500部を発行した。

各事業所をより身近に感じてもらえるように「事業所通信」でそれぞれのエピソードを紹介したほか、「事務局便り」として事務局を中心に進められている事業についての報告を毎号掲載するようにした。

6.2. WEB広報

ホームページ(<https://harmonycenter.or.jp/>)とSNS(Facebook・Instagram)を利用した情報提供を行った。基本情報の提供だけでなく、キャンプやイベントの告知も積極的に行った。

Instagramについては各動物広場での運用も始まり、動物広場の存在をより身近に感じていただける広報への取り組みも進んでいる。引き続き、より多くの人にハーモニーセンターを知ってもらうため、イベント等の告知にとどまらず、より興味を持ってもらえるようなコンテンツ提供を模索していく。

7. その他

7.1. 規程変更

法改正、事業運営の実態に合わせて退職金規程、賃金規程、就業規則、非常勤職員就業規則、育児・介護休業規程を変更した。

7.2. 馬の管理

法人所有馬82頭のほか、板橋区が所有する8頭を管理受託、引退競走馬支援団体(TCC)より1頭を預託し、計91頭の馬を管理している。

この年度に、高齢馬4頭が引退、障害者団体や放課後デイサービスを行う施設などへ譲渡した。また、就労支援、放課後デイサービス等を行う団体の依頼を受けて、現役馬の有償譲渡も行った。あわせて、2頭の新馬を購入したほか、麻布大学より2頭、福井県より4頭を引き取った。

近年、乗馬クラブ以外での馬・ポニーの活用が広がりつつある中で、馬を扱う技術や、安全に使用できる馬の需要が増している。これに応えることのできる体制づくりを目指して、2022年度から法人内で運用するポニー乗馬指導者技能認定制度の準備を行った。

活動に適したポニーの供給には、馬の適性を判断する技術やトレーニング技術が必要であり、調教・馴致にかかる時間も必要となるので、今後もスキルの継承を途絶えることなく進めていきたい。

7.3. カウンセラー・職員等の研修

A. カウンセラー募集と研修

コロナ禍の影響で大学・専門学校での説明会はできなかったが、ボランティア募集サイトの積極的な活用などにより、昨年度を上回る100名の新規登録があった。

この間、夏休みキャンプの中止などによる活動機会の減少や、経験豊富な世代の卒業などが重なり、カウンセラーへの技術の継承が十分に進んでいない状況があり、研修体系の改善が必要となっている。しかし一方で、カウンセラーから各自の関心や活動から派生する自主企画の提案なども見られるようになっており、この動きも活用して、ともに活動機会創出に努めたい。



登録カウンセラー数

| 継続登録者数 | 新規登録者数 | 合計 |
|--------|--------|------|
| 60名 | 100名 | 160名 |

B. 職員研修

研修委員会を中心に内容を検討し、以下の通り職員対象の研修を行った。

| | |
|-----------|----------------------------|
| 4月26日 | 「目的」と「手段」(40代・50代職員対象) |
| 5月17日 | 障害者理解・ハラスメントについて(6年目以降の職員) |
| 5月31日 | マナー研修・引馬研修(新入職員) |
| 6月28日 | 「目的」と「手段」(新入職員) |
| 11月15日 | リーダー研修 |
| 2月15日-18日 | 乗馬研修 |

7.4. 会議等

A. 理事会・評議員会等

第1回理事会(書面) 5月14日

第1号議案 東京電力ホールディングス株式会社との和解の件

第2回理事会 5月30日

第1号議案 令和2年度事業報告及び決算承認の件

第2号議案 役員改選の件

第3号議案 非常勤職員就業規則変更の件

第4号議案 定時評議員会開催の件

定時評議員会 6月20日

第1号議案 令和2年度貸借対照表及び正味財産増減計算書承認の件

第2号議案 評議員及び役員改選の件

第3回理事会 6月20日

第1号議案 代表理事及び業務執行理事選定の件

第2号議案 相談役選任の件

第3号議案 事務局長及び事務局長補佐選任の件

第4回理事会(書面) 7月2日

第1号議案 理事報酬の件

第5回理事会 12月19日

第1号議案 退職金規程改定の件

第2号議案 社会教育団体振興協議会退会の件

第3号議案 役員報酬規程の件

第6回理事会 3月21日

第1号議案 2022年度事業計画書並びに予算承認の件

第2号議案 規程改定の件

第3号議案 施設修繕費積立の件

第4号議案 期末賞与支給の件

評議員名簿作成委員会 6月5日

役員ミーティング 12月18日-19日・2月27日

B. その他

| | |
|----------|--|
| 60周年記念式典 | 2月6日 |
| 新年互礼会 | 1月17日 |
| 入職式 | 4月1日 |
| 運営会議 | 4月12日・5月17日・6月3日・6月22日・7月7日・7月14日・8月2日・9月1日 9月20日-21日・9月27日・10月11日・11月22日・12月13日・1月24日・2月2日 2月4日・2月17日・2月20日・2月28日・3月14日 |
| 施設長会議 | 4月12日・5月17日・6月22日・7月14日・9月13日・10月11日・11月22日 12月13日・1月24日・2月28日・3月14日 |

7.5. 法人事務

円滑に法人運営が行えるよう、以下の事務を行った。この年度は、法人内グループウェアの更新などを行い、職員の業務負担の軽減を図った。

- (1) 事業執行管理
- (2) 経営管理
- (3) 人事労務管理
- (4) 会員管理
- (5) 寄付金・助成金事務
- (6) 渉外事務
- (7) 庶務

7.6. 賛助会員

昨年度にクラウドファンディングを行ったことが影響し、賛助会員は増加の傾向が見られた。

賛助会員A 475 世帯

賛助会員B 97名